

# Igroup

communication

Special 08  
2023年00月00日発行

一人ひとりの一隅を  
照らし続ける。



【特集】

自立援助ホームへの  
見学会

2023年度 定期総会

ブックカフェ開設予定

自立援助ホームへの見学

野菜の収穫体験

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14  
TEL:092-710-0013

[www.npo-aig.jp](http://www.npo-aig.jp)



## 鳥がとまり木にとまるように、みんなが気軽に集える場所

### 退所児童への支援

- ・ 貧困支援（食事）
- ・ アフター相談機能
- ・ 就労支援

### 入所児童への支援

- ・ 居場所
- ・ 就労支援

### スタッフへの支援

- ・ 託児
- ・ 育児中の女性スタッフが無理なく働ける職場
- ・ 情報共有、休憩所
- ・ 研修場所提供
- ・ 研修資料（書籍）提供
- ・ 起業支援（スタッフの得意分野を生かすための貸スペース）

### 地域へひらく

- ・ 図書スペース（古書店？図書室？新刊？）
- ・ 育児相談
- ・ マッサージ
- ・ 菓子店
- ・ 雑貨店（就労支援事業所商品の委託販売）

### 同業者への支援

- ・ 情報交換場所
- ・ 合同研修場所

## 定期総会・講演会を行いました。

2023年6月7日 当法人設立記念日の日に定期総会・講演会を開催いたしました。

自立援助ホームを開設した2018年から5周年を迎えて、会場もホテルニューオータニ博多で執り行うことができました。

福岡・熊本・長崎から職員の皆様に参加していただきました。定期総会では、当法人の新たな取り組みについて審議を諮り、承認されました。

あえてアフターケア事業の許可を選ばずに自主事業として、居場所づくりの拠点事業を行います。

この企画の内容については、別のページにて紹介させていただきます。

また、今回は東京都のあすなろ荘から恒松様をお招きして、講演会を行いました。

経験談から伝えていただくことばかりで、とても学び多い時間となりました。

懇親会場でも質疑にお応えいただきまして、充実した講演会・懇親会になりました。

懇親会では、それぞれの施設ごとで日頃あまり会話をしていない方とのコミュニケーションも行っていた様子です。

勤続年数5年の職員の方からもメッセージを聞くことができたい雰囲気でした。

来年も学び多い定期総会・講演会を企画したいと思います。

## ブックカフェを2023年度中に開始予定

福岡県春日市に居場所づくり拠点事業を企画して取り組みます。

現段階でも企画案を元にイメージを構想している段階です。これから当法人自主事業のプロジェクトとして取り組んでいきます。

この考えに至ったのは、自立援助ホームをとおして様々な子ども達からの相談に触れてきた経験からです。

世代は異なるため共感を得る方は少ないかもしれませんが、私が青年期の頃はスマホやインターネットの普及がなく、学校帰りの古本屋等や書店・公園のベンチ等で友人と待ち合わせ、お金がない学生生活では限られた場所で時間をつぶしていた覚えがあります。

昔は近所の方が声をかけてくれたり、世の中に触れる機会が家

と学校の間しかありませんでした。

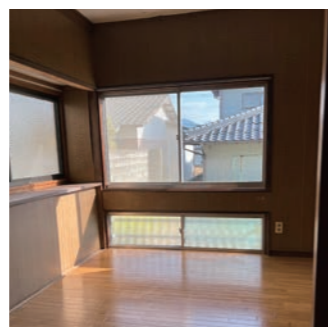
そんなことを思い出しながら、学生時代に気軽に立ち寄れて、大人の意見や相談ができる場所があれば良かったなと思い、この企画を承認いたしました。

今回は、社員の皆様からの企画を法人が後押しする形になっています。

企画者のイメージとは異なる物件でありましたが、駅から近く学生も立ち寄りやすいと判断して選定いたしました。

ブックカフェをメインとして、当法人の心理士による無料の心理検査やカウンセリングや、カフェでの就労体験を行い、就労支援の見える化を目指します。

企画の進捗については、随時お知らせいたします。



ほうれん草を収穫しました。



## Permit 新規開設のお知らせ

ペットとの共同生活を行い利用者に癒しを提供。

中間市にて自立援助ホーム開設いたしました。  
当法人は今回のホームで10ホームの運営を行う法人となりました。  
これまで支援した150人超の経験を活かして、利用者の支援に取り組んでいきたいと考えています。  
初の取り組みといたしまして、ペットとの共同生活を行い利用者に癒しを提供したいと考えています。

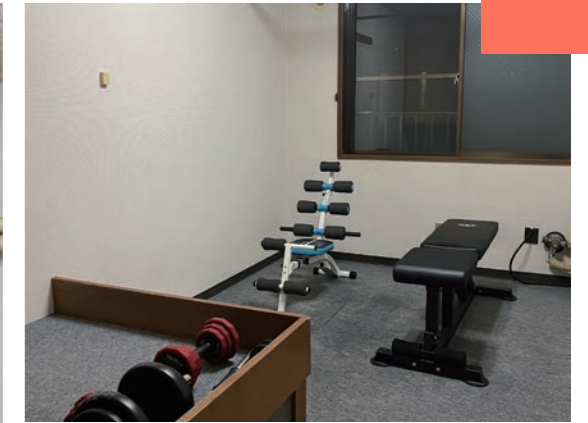
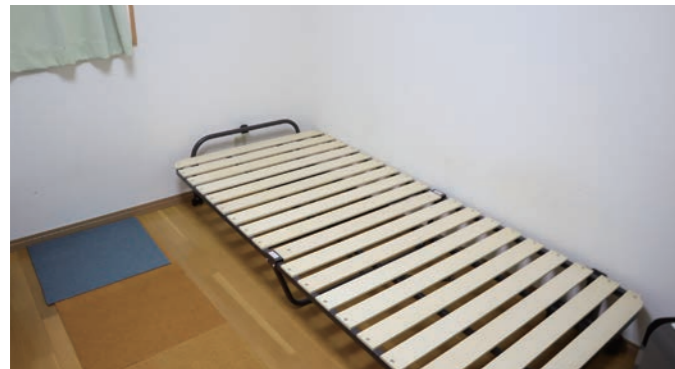
Permitとは、許容する。認める。可能にする。という意味で、私たちが支援する利用者へ大切にしたい想いとして選びました。  
ペットも入居時からではなく、入居者が徐々に増えて意見を聞いて柴犬にしました。  
ペットのいる生活になってからは、入居者にとって良い影響を確認できました。  
入居者の成長と共に育んでいきたいと考えています。

## 毎年恒例の畑で野菜の収穫体験をしました。

NPO法人アイグループでは、農家の方にご協力をいただきながら、野菜の収穫をしています。  
今回は、ほうれん草・玉ねぎ・じゃがいもの収穫を行いました。  
じゃがいもは昨年30袋収穫でしたが、今回は50袋収穫できました。  
施設も10拠点に増えたので、各施設で分けて食育に取り組んでいきます。  
玉ねぎやほうれん草もホームの食卓に彩りを添えています。  
毎年恒例になりつつあり、収穫の際は利用者も参加してもらえることが嬉しく思っています。



たまねぎの収穫を終えました。10施設へ届けて旬の食材を提供します。



## 自立援助ホーム 鳥取フレンド様に見学に行きました。

鳥取フレンドは、駅から徒歩圏内で商店街や病院も近くとても便利が良い立地でした。

歴史のあるホームには、気遣いや過ごしやすい環境作りがあり自立援助ホームの為に建てられたホームでした。

以前の鳥取フレンドホーム長の山中様には、全国自立援助ホーム協議会のDVDをとおしてとても救われたこともあり、是非見学してお話を伺いたいと考えていました。

ホームを見学させていただいた時に、全国自立援助ホーム協議会 前会長の田村様からも経験談を伺うことができました。

鳥取フレンドの自立援助ホームの入所での生活について  
自立援助ホームへの入所は、直接本人又は保護者からの申出、児童相談所・家庭裁判所・福祉事務所・婦人相談所・施設等からの申出により、あくまでも本人の意思を確認した上で実施します。

社会的自立を目指して、就労することを原則としています。就労

先については、本人の希望、適性、等を考えて相談の上決めます。働いて得る収入の中から、鳥取スマイル月額30,000円程度の家賃、光熱水費、食費を寮費として徴収します。本人と相談の上、1万円程度の貯金をしています。社会的自立に向けて、アパートの敷金にしたり、自立する時の費用にしたりするためです。仕事の関係で遅くなる以外は、「夜10時の門限を守ること」、「自分も他人も大切にすること」、「何でも職員と相談すること」、程度の約束ごとがあるくらいで、子どもたちの自主性、自律性によって運営されています。

定時制高校、通信制高校等への通学も奨励しています。現に通学している子どもも何人かいます。

退居間近な者等を対象にした自炊生活援助の場としてステップハウスを設けています。また、地域の農業ボランティアや建物の掃除などを職員と一緒にしながら、働くことへの第一歩を目指す体験就労等自立支援訓練施設も設けています。

### 鳥取フレンド

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2-103  
Tel・Fax:0857-27-1198 / メールアドレス:tottori.friend@gray.plala.or.jp

## 自立援助ホーム KCカルム様へ見学に行きました。

丹頂鶴を見ることができる釧路市内にある自立援助ホームへ伺いました。

魚市場等もあり新鮮な魚介類もあり飲食店も多く就労先も充実しているような地域でした。

KCカルムを運営されている一般社団法人ココロミクラフティの設立趣旨は、「私たちは福祉に従事する中で、様々な生きづらさを抱えながら生活をしている方々の現状を目の当たりにしてきました。それは障がいであったり、家庭の状況であったり、個人ではどうしようもないことも多く、どう関わるのが生きる力につながるか、個人に寄り添いながら自問自答を繰り返してきました。また、個人が個人を支援することの限界を感じ、人を支えるには多様性を持ち、方向性やそれぞれの役割などを共有したチームを作るなど、たくさんの方で支えていく必要性を感じました。

生きる力につながることは一つではなく、希望や生活ニーズの数だけ、たくさんの選択肢があります。その選択をすることは、個々の権利であり、他者に侵害されるものではありません。

私たちは、一人ひとりの希望や生活ニーズに寄り添いながら、色々な選択肢を模索し、社会福祉の援助を必要とする地域住

民の生活を共に創るために、様々な福祉事業を行います。また私たちの取り組みの一つひとつの積み重ねが、地域福祉サービスの推進と発展につながると信じ設立された法人です。

事業の多角的に取り組まれていて、児童福祉・障がい児者福祉を行っていました。

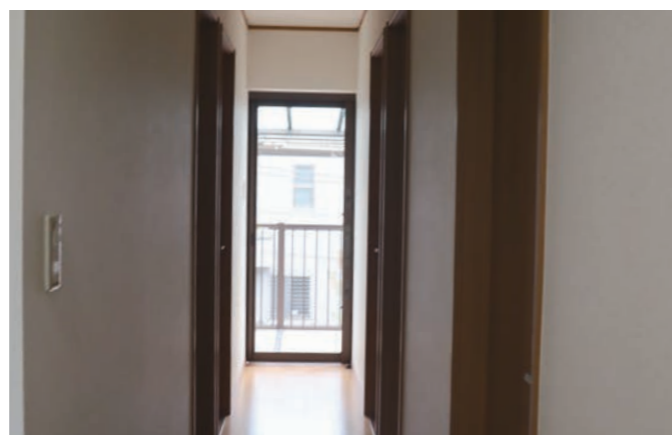
7か所(自立援助ホーム2か所、放課後等デイサービス・児童発達支援2か所、指定特定相談支援・指定障がい児相談支援1か所、生活介護1か所、居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護1か所)

施設を見学に行った際に驚いたのは、同敷地内で複数の居場所を提供されていて、ホームとステップハウスの管理も行き届きやすい環境でした。

施設は、学生寮のような大浴場があり部屋もすべて個室で食堂や相談スペースも十分に確保されていました。

### KCカルム

〒085-0831 北海道釧路市住吉2-11-2  
Tel・Fax:0154-64-9658 / メールアドレス:kc.calm@kokoromicrafty.com



## 自立援助ホーム カリヨンタやけ荘様へ見学に伺いました。

運営母体である社会福祉法人カリヨン子どもセンターは、虐待や非行などの困難を抱える、主に十代後半の子どもたちの命を支えるために、子どもシェルター、自立援助ホーム、デイケア(カリヨンハウス)、子どもの支援金制度運営事業等を行っています。

カリヨンタやけ荘は、2006年3月に開設した女子専用の自立援助ホームです。

素朴な一軒家で、子どもたちひとりひとりの事情や目標に配慮しながら、暮らしを見守っています。

職員間の風通しがよく、どのようなことでも相談しあえる雰囲気、困ったときにサポートしあえる関係を大切にしています。

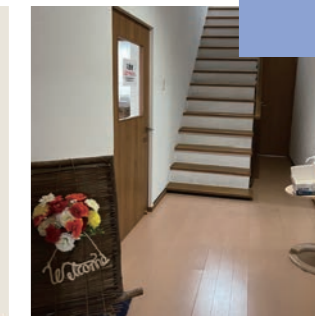
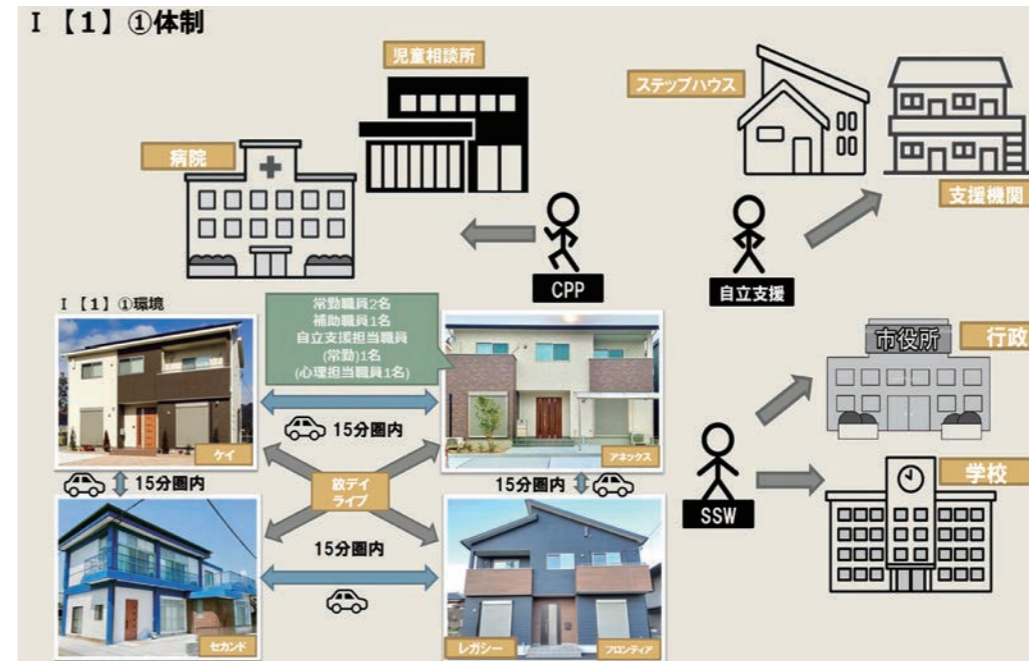
子どもシェルターの運営、弁護士との連携など、法人独自の取り組みや特色があります。

法人内の職員交流の他、外部研修への参加も推奨されています。

これまで約90名を超える子どもたちが利用し、アフターケアもかかせない業務のひとつです。

### 社会福祉法人カリヨン子どもセンター事務局

〒115-0055 東京都北区赤羽西3-33-3  
Tel:03-6458-9120



## 自立援助ホーム ケイ様へ見学に伺いました。

一般社団法人Center of the Fieldの見学についてケイをはじめとした自立援助ホーム5施設と、放課後等デイサービス1施設・相談支援事業所1施設を運営されています。福岡県の京築地区に事業展開されていて、新築での自立援助ホームを開設数は九州ブロック内で最多であり、就学支援に特化した取り組みが印象的でした。特徴が多岐にわたる為、要点のみ紹介いたします。

- ・各ホームは一人体制になりがちであるが、近隣に職員が24時間いるため、連携がとりやすい
- ・緊急時の対応では複数人での対応も可能、また食事の準備や他の入居者へのフォローも迅速に行える
- ・情報共有が頻繁にでき、職員間の関係形成が構築できている
- ・専門性をいかして多様性のある入居者への対応が可能
- ・公認心理師による発達検査
- ・療育手帳・精神保健福祉手帳に該当するか等の資料として活用できる
- ・代表者が社会保険労務士、労務管理等が外部委託なしに法人内で完結することができる

- ・保護司、保護観察処分の入居者に対する支援、ホーム職員との連携がスムーズにできる
- ・細やかなアセスメントや定期的なモニタリングをもとにした個別の支援計画の充実
- ・心理(医療)や行政、教育といった様々な機関との連携も経験を活かして積極的に活用することができる
- ・SSWや放課後等デイサービスとの連携により、地域に居住する養護性の高い子どもの一時保護にも活用されている→自力での新規開拓、運営の安定
- ・福岡県福祉サービス第三者評価事業評価調査者、福岡県の実地指導(監査)以外の第三者評価についても対応している
- ・各ホームすべてに自立支援担当職員が配置されている
- ・他の専門職と明確な業務の棲み分けをおこなっている
- ・代表の想いによる自立支援担当職員(職員全員)の資格取得の推進、業務のすき間時間の活用(勉強を推進)
- ・ケイグループ各ホームの自立支援担当職員が集合。最低月1回の研修を実施。
- ・ケイグループ入居者の高等教育機関への進学者が多い

**ケイ**  
〒800-0343 福岡県京都郡菟田町上片島2279-2  
Tel・Fax:0930-25-0955  
メールアドレス:nonakakatuji@hotmail.com

**ケイ セカンド**  
〒800-0323 福岡県京都郡菟田町与原1066-1  
Tel:0930-25-0955/Fax:0930-28-3476  
メールアドレス:nonakakatuji@hotmail.com

**ケイ アネックス**  
〒800-0323 福岡県京都郡菟田町与原1124-2  
Tel:0930-25-0955/Fax:0930-28-9476  
メールアドレス:nonakakatuji@hotmail.com

**ケイ フロントティア**  
〒824-0063 福岡県行橋市中津熊667-1  
Tel:0930-25-0955/Fax:0930-28-9476  
メールアドレス:nonakakatuji@hotmail.com

**ケイ レガシー**  
〒800-0352 福岡県京都郡菟田町富久町1-5-4  
Tel:0930-25-0955  
メールアドレス:enzyohome555@gmail.com



## 自立援助ホーム

### 島添ホーム様へ見学に伺いました。

島添ホームは、全国で9番目の自立援助ホームとして平成4年12月に開設しました。

男女共同ホームとして運営してまいりましたが、平成26年度から女子ホームとして新たにスタートしています。

自立援助ホームは基本的に自身の事は自身で行います。日用品や通勤通学費用、病院受診代等も自身の収入で対応します。また、洗濯や自室の掃除、弁当作り等々、自立する上で必要な生活能力を高めていく事も大切にしています。

利用者各々の仕事や学業で慌ただしい日々の中にも楽しみを提供する為、誕生日会や歓迎会等の和気あいあいとした雰囲気作りやリラックスできる空間作りを心掛けています。

#### 島添ホーム

〒901-1301 沖縄県島尻郡与那原町字板良敷4-13  
Tel・Fax:098-945-3411 / メールアドレス:shimazoehome@rondo.ocn.ne.jp

## 自立援助ホーム カルーナFUKUOKA様について。

「カルーナFUKUOKA」は、公益財団法人福岡YWCAが運営する、定員6名の15歳～20歳(22歳までの入居が認められる場合もあります。)までの女子を対象とした自立援助ホームです。居場所がない子どもたちに安全にかつ、安心して生活できる居場所を提供することを福岡YWCAの新しい使命と捉え、2019年4月に開設しました。ホームの名前の由来にもなっている、『カルーナ』とはヨーロッパやシベリアに自生するツツジ科の植物です。花言葉は「自立」「旅立ち」「誠実」。冷涼な荒野でもたくさんの花を咲かせるカルーナに、彼女たちの姿を重ね、命名されました。2015年にスタートした公益財団法人京都YWCAの自立援助ホーム「カルーナ」と共に、安心できる場を作り、社会で自立した生活が送れるように就労や就学の支援を行っています。

福岡YWCAと京都YWCAの母体であるYWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)とは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、人権や健康や環境が守られる平和な世界の実現に向けて活動する国際NGOです。1855年に英国で始まり、今では日本を含む120か国の国や地域で、活動しています。福岡YWCAは1948年の設立以来、「平和・女性・子ども」をテーマにし、日本語を母語としない子どもの学習支援「ハッピースクール」や子育て支援、日韓交流事業、DV防

#### カルーナFUKUOKA

〒814-0003 福岡市早良区城西1-5-43  
Tel:092-407-0897 / Fax:092-407-0896 / メールアドレス:fukuoka@fukuoka.ywca.or.jp

止や平和を構築する活動等を行っています。その活動の中で家庭が安全でない子どもたちと接することが増え、ホームを作りたいと願うようになりました。

現在ホームに関わるスタッフは全員女性で、全ての入所者が安全で安心できる場をつくることに努めています。皆で話し合っ、お出かけイベントを計画したり、ルールについて一緒に見直しを行ったり、意見を言う、聞いてもらえる機会を作っていくとしています。

ホームから福岡の中心部である天神や博多へのアクセスも良いことから、昼間は市街地にある学校やアルバイトに出掛ける入居者が多いです。学校やアルバイトを頑張りながら、入所者がそれぞれの目標に向かって一歩ずつ自立に向けた歩みを進めています。

開設から4年が経ち、目の前のことで精一杯だった日々から、振り返りや周りを見る余裕がやっとなってきて、現在ホームの抱える課題や強みが見えてきました。退所者も増えたことにより、退所後の支援の拡充も模索しています。

今後は自立援助ホームとしての単体の活動に留まらず、福岡YWCAで行っている他の活動とも掛け合わせながら、入居者、退所者たちが新たな出会いを通して「成りたい自分」になれるような自立に向けた伴走をしていきたいです。

子どもたちの自立を  
家族のように支援する、  
プロフェッショナルたち。



## 5周年を記念して、現在 ホームページを開設いたしました。

5周年を記念して、現在ホームページを開設いたしました。

トップページには、今日過ごす居場所に困った方が問い合わせできるページや、困りごとの相談できるページや、寄付品などの提供情報を問い合わせできるところから、法人の取り組みや各施設の内覧様子を動画で確認できるページなども作成いたしております。

過去の通信誌や法人案内・事業所リーフレット、事業報告書等も確認できるようにしています。

支援のお願いもクレジットカード等で手続きが行えるように作成を行っています。

LINEをスマホに入れている方からは、無料通話でスマホから問い合わせできるように工夫をしています。

お知らせなどで各施設や法人の取り組みを更新していく予定です。  
ひとりでも多くの方に、活動を知っていただけるように取り組んでいきたいと考えています。  
ご覧いただくと嬉しいです。

[www.npo-aig.jp](http://www.npo-aig.jp)

## えん

自立援助ホームえん

### リビングの老朽化に伴い、 リフォームを行いました。

えんを初めて使い慣れたリビングの老朽化に伴い、リフォームを行いました。

これまでよりも使いやすく料理もしやすい環境になったので、利用者のお菓子作りや自炊の練習なども取り組んでいきたいと考えています。

最近はおもてなし職員さんが増えて討議する内容も質が良くなり、自立支援に向けた取り組みが行えています。

心理士が身近でサポートしていただく環境は職員にとって良い面もそうでない点もありますが、利用者の心のケアの向上にはつながっています。

退去した利用者の出入りもあり、昼間は職員4～5名に加えて退去した利用者や在籍利用者もリビングに集い賑やかに過ごしている様子も伺えます。

この雰囲気を大切に支援を続けていきたいと考えています。



# ラブ

自立援助ホームラブ

職員・児童ともにまた一つ成長した「私」になれるように、1日1日を大切に過ごしていきたいと思ひます。

新年明けましておめでとうございます。

昨年また1年間、いろいろなことがありました。イベントで盛り上がりたり、穏やかに日常生活が過ぎていくこともあれば、児童と職員とで話し合いが平行線になってしまい、お互いに苦しい思いをする日々が続くこともありました。振り返ってみると、あつという間に過ぎてしまったような、でも中身はしっかり詰まっている1年になりました。昨年は熊本のホーム合同での1泊2日三井グリーンランド旅行という、初のビッグイベントがありました。三井グリーンランドに行くのは初めてという児童もいて、時間いっぱい元気いっぱい遊んでいました。また、クリスマスには料理とプレゼントを用意しました。子どもの喜ぶ顔が見たかった職員にとっても、大切なサンタ体験の思い出ができました。今年はどうなるかわかりませんが、職員・児童ともにまた一つ成長した「私」になれるように、1日1日を大切に過ごしていきたいと思ひます。



# 庵

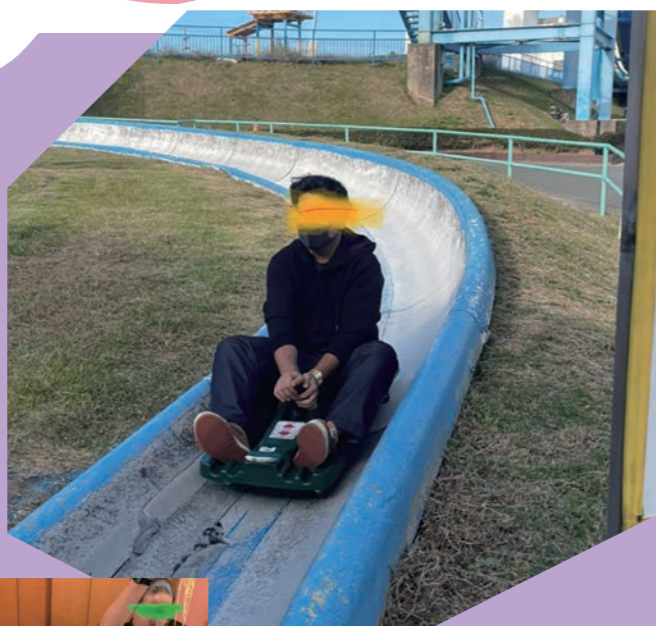
自立援助ホーム庵

ことは寒さがのんびりとやってきているお蔭で過ごしやすい日々を送っています。庵では現在4人の子どもたちが生活しています。

2022年11月に初のイベントを行いました。

「グリーンランド遊園地で遊ぶ&オフィシャルホテルに一泊しよう!」です。企画が決定してから子どもたちは当日を心待ちにしていました。ホテルの夕食のビュッフェを楽しみにしている子や「遊園地のアトラクション何に乗ろうかな?」と考えている子。ワクワクが止まりません。お目当てはそれぞれ違いましたが行く前からとても楽しみにしていました。普段は仕事としての関わりが主ですが、この日は職員も子どもたちと一緒に思いっきり遊んでいました。日常生活の中ではできない経験を共にして、新たな気づきもあり有意義な時間になりました。そしてこの冬、庵から一名が退所します。就職が決まり遠方への旅立ちです。

庵にきてから仕事や取り組み始めたことへの継続ができない。精神面の弱さから体調を崩すこともあり不安定な日々を多く過ごしていました。自立し生活していくのは困難なのではないかと本人も含め職員も何度も苦悩した一人です。今となれば通過地点であり、その時間があつたからこそ



成長だったのだと思ひすることもできます。この先は庵を離れて一人で生きていくこととなりますが、困難を乗り越えてきた自分を信じて突き進んでいくて欲しいです。また、一人で寂しい時、辛い時にはイベントで楽しく過ごした時間を思い出して笑つて欲しい。どこに居ても「一人ではないからね」と送り出したいです。

# テンポラリくまもと

テンポラリくまもと

大きな成長を遂げている子どもたちをこれからも寄り添いながら支援していきたいと思ひます。

テンポラリくまもとです。

開設から8か月が経ちました。

色々なことがありながらも児童の成長がみられています。

入所して半年の16歳の定時制高校の女の子がいます。当初は大人しく職員とのコミュニケーションを図ることもやや困難でした。1か月が経過するころから、無断外泊や素行の問題がみられ施設長から指導されるも全く改善がみられませんでした。関係機関と連携を図りながら本児とも幾度とない面談を行いました。ある日泣きながら事務所へ来て「なんで私だけこんな思いをしなければいけないの。周りのみんなは親にお小遣いもらって遊んでいる。私はバイトして学校行って一日が終わる。全然楽しくない」と職員へ胸の内を吐き出してくれました。「そうだよ、きついことあつたよね」と共感してあ



げる事しかできませんでしたが、本児の口から「私は今の自分からかわりたい」と宣言しその日から行動も生活態度も良い方向へ変化し掛け持ちのバイトをしながら学校へ行っています。先日文化祭では和太鼓の演舞に出演し施設長、職員へとても素晴らしい演舞を見せてくれました。本児から感動とゆう最高のプレゼントを頂きました。大きな成長を遂げている本児をこれからも寄り添いながら支援していきたいと思ひます。

# テンポラリ-くまもと2号室

テンポラリ-くまもと2号室

子どもたちも自立への第一歩を踏み出しています。この一歩を大切に支援していきたいと思ひます。

テンポラリ-くまもと2号室です。

令和4年11月1日からテンポラリ-くまもと2号室として新たに女子ホームとして開所致しました。

開所当初から入居している16歳の通信制高校に通う女の子がいます。入所に至るまでに自宅へ帰りた気持ち強いものの、自宅へ帰ることへの不安、ホームでの生活を続けていくことも不安と二つの気持ちの狭間で揺れ動いていました。

不安な気持ちを訴える頻度も多くなり本児の思いと一緒に振り返り気持ちの整理を行いながら支援をしました。ご家庭の諸事情もありホームでの生活が決まりましたが、本児も納得して決定したことであり当初の頃の不安感の訴えもなくなり笑顔も見られるようになりました。



今までバイトの経験はなかったのですがバイトをして貯蓄して自立していきたいと目標を立てることもでき自立への第一歩を踏み出しています。この一歩を大切に支援していきたいと思ひます。



# LUCK

自立援助ホームLUCK

## 初めての地域交流

日ごとの寒さがつる12月下旬、地域の方々や農家の方々の餅つきに参加しました。気温が低い日が続いていましたが、この日は冬晴れで暖かく、道中は山間の景色がとても綺麗でした。子どもたちも、田んぼや山に囲まれたのどかで自然豊かな場所での餅つきとあって、表情も明るく終始笑顔で過ごしていました。

参加していた地域の方々に優しく迎え入れていただいたおかげで、子どもたちはすぐに溶け込むことができ、その場はとても和やかで楽しい雰囲気でした。本格的な餅つきは初めての体験のようで、重たい杵を使ってお餅をついたことがないため、最初は力が入らずなかなか上手につけずにいました。しかし、地域の方々に優しく丁寧に教えていただき、最後にはコツをつかんで上手に餅つきができるようになりました。お餅を食べる際には、子どもたちは「おいしい!」と満面の笑みでほおばっており、普段なかなか食べられない、温かくて柔らかいつきたてのお餅の格別さ感じていたようで、その姿を見てスタッフも笑顔になりました。



参加後、子どもたちから「楽しかった!行ってよかった!また来年も行きたい!」と嬉しい声も聞けました。LUCKでは、今回初めて地域の方々や農家の方々と交流させていただき、様々な年代の方たちと関われる貴重な機会となりました。また、子どもたちの意外な一面やホームでは見ることができなかった姿も見ることができました。私たちスタッフも行事を通じての地域交流の大切さを改めて実感し、今後も行事などに参加し、地域交流を行っていききたいと思います。

# テンポラリー小倉北

テンポラリー小倉北

## 初めてのホーム旅行

12月初め大分へ旅行に行きました。子どもたちが自ら旅行プランを立てました。旅行に行ったことがない、旅行計画を立てたことがない、修学旅行に行ったことがない子どもたちだからこそ自分たちで場所や宿等を調べることで良い経験が出来たと思います。最初はどこに行くか、宿はどうやって調べるのか分からないようで苦戦していました。ホームの子どもたちと相談しながら、いろいろなツールで細かく調べてくれました。自分たちで立てた計画で旅行するということが、カウントしながら旅行日を待っていました。

大分へ旅行に行く車中もずっとお喋りが止まりませんでした。遊園地では何度も好きなアトラクションに乗ったり、旅館では何時間もお風呂に入っている子どももいました。

今回の旅行を通して、自ら立てる旅行プランの難しさ、ホームのみんなで行ける嬉しさ、一番は旅行の楽しさを感じる事が出来たのではないかと思います。

ホームに着くと「旅行に行けて良かった。連れて行ってくれてありがとう。運転をずっとしてくれてありがとう。」と子どもたちから嬉しい感謝の言葉も聞けました。



私たち職員も子どもたちと一緒に旅行に行くことができ、本当に良かったです。子どもたちの日頃見られない様子を見ることが出来ました。この経験を今後の生きる糧にしてほしいと思います。



# テンポラリー

テンポラリー

## 就労支援に力を入れて利用者の就労意欲も増して良い雰囲気になっています。

テンポラリーのコンセプトは、目的も定まっていない方でも働けなくても、何もしなくても居場所に困った方を受け入れることで始まりました。この時に、初めて利用料金を無料にした運営を取り入れました。なぜそのような考えに至ったのかは、自立援助ホームでありながら就労できない子が増えたこと、働ける子が働かなくても生活を送れて且つ医療費も公費で賄われることに矛盾を感じて就労意欲を欠くことになりました。

このままでは自立援助ホームのあり方として機能しないと考えてテンポラリーを開設。

当然入り口は良いが出口である退去時に苦勞することに不安がありました。

今年に入り頼もしい職員の方が次々と入職していただきました。



その職員の方のおかげもあり、テンポラリーの不安はなくなり、今では就労支援に強い同地域にある“えん”よりも就労支援に力を入れて利用者の就労意欲も増して良い雰囲気になっています。最近ではジムへ通ったり、マルシェも企画から実施まで利用者と一緒に取り組んでいる様子です。韓国旅行へ行く子や成人式用の着物選びをする子や成人式の前撮りに参加する子など活動的な施設になっています。今後は楽しみに育っていることに嬉しく思っています。



# inn

自立援助ホームinn

## 児童たちの興味の幅を広げられるように、ホームの中でもイベントを作り出していけたらと、知恵を絞りながら計画しています。

自立援助ホームinnでは、10月から新しい児童が入所しました。元々いた児童とは、居住棟が違いますが、元々いた児童にとっては初めて同年代の児童と暮らすことになります。

最初は、元々いた児童も新しく来た児童も、戸惑いながら、お互いに気を遣い合っていたようですが、1ヵ月半ほどたって、少しずつ、お互いが自分のペースで過ごしていけるようになってきたように思います。また、人が増える事で変化もあります。

食事の用意をする場所やスタッフルームを移動したり、物を入れ替えたりすることで、職員もこれまでとは違う動きをすることが多くなり、最初は色々戸惑うことが多くあり、やっと慣れてきたところです。

もうすぐ、クリスマスや年末年始など、いろんなイベントがあり、それぞれの児童も初めてのことであるので、楽しい思い出をたくさん作れるように、しっかり準備していきたいと思っています。また、少人数だからこそお出かけもしやすいので、出来るだけ色々な場所で色々な体験ができるように考えている事もありますし、児童たちの興味の幅を広げられるように、ホームの中でもイベントを作り出していけたらと、知恵を絞りながら計画しています。



## こども基本法について

今年の4月からこども家庭庁が創設されて、同時にこども基本法もできました。  
 私たちの管轄だった厚生労働省のこども家庭課も異動しました。  
 児童福祉法とこども基本法の理解を深めて取り組んでいきたいと考えています。  
 こども基本法には、少子化社会対策基本法・子ども・若者育成支援推進法・子どもの貧困対策の推進に関する法律も関わります。

利用者にとって利用する年齢の緩和は、一年前の成人年齢の引き下げに伴う賛否と同様に様々なケースの議論が想像できますが、大切にしたい考えとしてそこに利用者を取り残さないこと。  
 こども基本法にあるような意見の聴取や仕組みに関しては道筋が見えている気がします。  
 そこに関連している子の意見は届けられるかと思いますが、そこに関りを持っていない子への取り組みも重要ではないかと思うところです。

その為には、弱者・被害者・発達に課題を抱えた子が共に生活している大人のケアや社会が注視していることも整えて、虐待や暴力・犯罪へつながらない為の大人を含めた社会づくりが課題なのではないかと思います。

利用者の権利擁護を大切にするためにも、利用者が環境を変えることなく住み慣れた地域と交友関係が確保されることや、それに必要な安全対策を確保していくことも推進していく取り組みに期待したいと考えています。

あと、退去に向けての支援のあり方を検討する段階にきています。  
 今後、自立支援計画を作成するに時に行われる援助方針会議にも当事者である利用者が参加して意見表明の機会を確保する方向になると思います。

当法人では現在も利用者からの聴取により計画作成を行っていますが、この工程は退去時へ向けてだけでなく、今後出戻り支援も含めてどのように整えていくことが各施設で討議していきたいと考えています。



## テーブルマナーを学ぶ食事会

福岡会場と熊本会場にわかれて、テーブルマナーを学んできました。

福岡の施設にて、テーブルマナーを学ぶ食事会を開催いたしました。

グランドエンパイアホテルのレストランアンテナアトにて、テーブルマナーを教わりながら利用者・職員・関係者の皆様と食事会を行いました。

みんな嬉しそうにすごしていました。

熊本ではホテル日航熊本にて利用者と退去者、職員と関係者を招きテーブルマナーを学びながら食事会や抽選会を行いました。毎年恒例の取り組みとして続けて開催いたします。

